

農業の登録内容は頻りに変更されます。農業は最新情報を確認して使用しましょう。最新情報は府・農の普及課、JA、Web版大阪府農作物病害虫防除指針 (<http://www.jpnpn.ne.jp/osaka/shishin/shishin.html>) から。農産物の病害虫発生予防については大阪府環境農林水産部農政室推進課病害虫防除グループ (<http://www.jpnpn.ne.jp/osaka/>)

営農総合センター 営農指導課 (072-444-8001)



# 野菜



## たまねぎ

### 病害虫防除

曇雨天の日が続くと、べと病や白色疫病の発生が多くなる。常発地や排水の悪い場合は要注意である。溝を切って排水を良くするなど、耕種防除に努める。発病を認めた場合は表1のいずれかの薬剤を散布する。また、白色疫病が発生した株は灰色腐敗病を併発しやすいので注意する。灰色腐敗病は表1のいずれかの薬剤で予防する。

## なす

### 施肥

定植は3月下旬～4月下旬に行なう。定植の2週間以上前に、苦土石灰を10a当たり80～100kg施し、荒起こししておく。元肥は、定植の1週間程度前にチッソ・リン酸・カリを各成分で、10a当たり14～15kg施用する。生育後半の肥料切れを防ぐため、緩効性肥料を中心にするが良い。

### 植え付け

種いもの芽が2～3cmぐらいに伸びた頃、10cm程度の深さに植え付ける。砂壤土ではやや深く、粘質土ではやや浅くする。植え付けの際には、種いものを大・中・小に分別し、大きいものを大・

## しゅんぎく

### 病害虫防除

マメハモグリバエの吸汁による被害が多くなる時期であるため、それを防ぐために、表6のいずれかの薬剤を害虫発生初期に使用する。

## 軟弱野菜

### ハウスの病害虫防除について

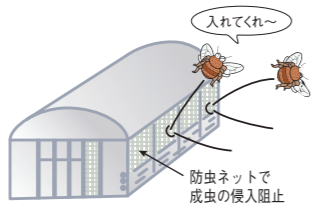
ハウス栽培ではハウス内への害虫の飛び込みを防ぐため、ハウスサイドやハウスの出入り口に防虫ネットを被覆すると効果がある(図)。なお、高温時には換気不良に

1mm目合いのネットが有効な作物と害虫

作物名	害虫名
なす、トマト、菊	アブラムシ類、アザミウマ類、ハモグリバエ類、オオタバコガ、ヨトウムシ類
しゅんぎく	アザミウマ類、ハモグリバエ類、ヨトウムシ類
こまつな 大阪しろな	アブラムシ類、コナガ、ヨトウムシ類、ハイマダラノメイガ、ハモグリバエ類

5mm目合いのネットが有効な作物と害虫

作物名	害虫名
なす、トマト、菊、軟弱野菜、花き類	オオタバコガ、ハスモンヨトウ、ヨトウムシ、シロイチモジヨトウ



(図)ハウスのサイドや出入り口など、ハウスの開口部にネットを被覆

表1 たまねぎの病害に登録がある農薬

病害名	薬剤名	希釈倍数	使用時期	使用回数	10a当たりの散布流量
べと病 白色疫病	リドミルゴールドMZ	1000倍	収穫7日前まで	3回以内	100～300ℓ/10a
	ランマンフロアブル	2000倍	収穫7日前まで	4回以内	100～300ℓ/10a
灰色腐敗病	ベンレート水和剤	2000～3000倍	収穫前日まで	6回以内	100～300ℓ/10a
	アフェットフロアブル	2000倍	収穫前日まで	4回以内	100～300ℓ/10a

表2 なすの灰色かび病に登録がある農薬

薬剤名	希釈倍数	使用時期	使用回数	10a当たりの散布流量
フルピカフロアブル	2000～3000倍	収穫前日まで	4回以内	100～300ℓ/10a
ベルコート水和剤	3000倍	収穫前日まで	3回以内	150～300ℓ/10a
カンタスドライフロアブル	1000～1500倍	収穫前日まで	3回以内	100～300ℓ/10a
アフェットフロアブル	2000倍	収穫前日まで	3回以内	100～300ℓ/10a

表3 なすのすすかび病に登録がある農薬

薬剤名	希釈倍数	使用時期	使用回数	10a当たりの散布流量
トリフミン乳剤	2000倍	収穫前日まで	5回以内	100～300ℓ/10a
ラリー水和剤	4000～6000倍	収穫前日まで	4回以内	150～300ℓ/10a
ベルコート水和剤	3000倍	収穫前日まで	3回以内	150～300ℓ/10a
ダコニール1000	1000倍	収穫前日まで	4回以内	100～300ℓ/10a

表4 ほうれん草のべと病に登録がある農薬

薬剤名	希釈倍数	使用時期	使用回数	10a当たりの散布流量
ランマンフロアブル	2000倍	収穫3日前まで	3回以内	100～300ℓ/10a
Zボルドー	500倍	—	—	100～300ℓ/10a

※Zボルドーは、野菜類で登録がある。  
※一般的に高温時のZボルドー(銅剤)散布は、葉害の発生を招く恐れがあり湿度条件にも注意が必要である。一定の温度下(26℃)では、湿度が高まると葉害の発生が増加する。低湿度条件下(湿度70%)では、温度は葉害の発生に大きく影響しないが、高湿度条件下(湿度85%)では、温度の上昇とともに葉害の発生が多くなるので注意する。  
※Zボルドーは、ほうれん草に使用する場合は、葉の汚れを生じるので、収穫間近の散布は避ける。

表5 こまつなの白さび病に登録がある農薬

薬剤名	希釈倍数	使用時期	使用回数	10a当たりの散布流量
ランマンフロアブル	2000倍	収穫3日前まで	3回以内	100～300ℓ/10a
ライメイフロアブル	2000～4000倍	収穫3日前まで	3回以内	100～300ℓ/10a

※ランマンフロアブル、ライメイフロアブルは、非結球あぶらな科野菜類で登録がある。

表6 しゅんぎくのマメハモグリバエ防除に登録がある農薬

薬剤名	希釈倍数	使用時期	使用回数	10a当たりの散布流量
アフーム乳剤	2000倍	収穫7日前まで	2回以内	100～300ℓ/10a
カスケード乳剤	2000～4000倍	収穫7日前まで	2回以内	100～300ℓ/10a

ら順に植え付ける。

### マルチング

定植後はできるだけ早く黒マルチをかける。発芽後、マルチの穴あけが遅れると芽が焼けるので、遅れないように注意する。

## 水なす

### 病害虫防除

ハウス栽培では、灰色かび病やすすかび病の発生に注意する。特に曇雨天の日が続くなど天候不順の場合は、葉が軟弱になり病気の発生が多くなりやすいため、日中は換気に努め、ハウスが過湿にならないように注意する。

発病した葉や果実は見つけ次第、ハウスの外に持ち出して処

## ほうれん草

### ほづれん草

ほうれん草の花芽分化は長日、低温によって誘起されるため、3月以降は、春まき用の晩抽性品種を用いる。

### 病害虫防除

降雨が続くと、べと病の発生が多くなる。抵抗性のある品種

より高温障害を招くことがあるので換気部分を大きくするなど十分な換気に努める。高温が懸念される場合は、ハウスサイドに沿ってネット障壁で囲うのも効果がある。ネットは白色、透明が一般的である。シルバーは害虫の忌避効果が高いが、遮光により生育が阻害されることがあるので注意する。

## 果樹

### みかん

### せん定

昨年が表年の園では、本年は裏年と予想されるので、間引きせん定(枝の分岐部から切る)を主体とする。結果母枝をできるだけ多く残すようにするため、せん定量は少なくし、日陰を作る枝を整理する程度が良い。また、昨年が裏年だった園や樹によってバラツキの出た園は、樹の状態を見てせん定量を判断する。

### 間伐・縮伐

密植園では間伐が重要。隣の樹と枝が触れ合っている場合は、必ず間伐や縮伐を行なう。

### 春肥の施用

春肥は新梢の発生や充実、開花後の結実や幼果の肥大促進に



## もも

### 病害虫防除

縮葉病は3月下旬以降の発芽・展葉期に雨が多く、風当たりの強い園地で多発しやすい。発芽前に石灰硫黄合剤(7倍/発芽前/—)を散布する。また、3月中旬にはチオソックフロアブル(500倍/収穫7日前まで/5回以内)を枝先にも十分かかるように散布する。なお、せん孔細菌病の防除を目的にカスミンボルドー(500倍/開花前まで/3回以内)を散布する場合には、石灰硫黄合剤(7倍/発芽前/—)との散布間隔は2週間程度あけるようにする。

### 摘蕾

※石灰硫黄合剤は、メーカーにより登録内容が異なるため、ラベルを確認して使用する。  
ももは着果数の20～30倍の花

を用いるとともに、発生前からの予防的散布や、発生初期に表4のいずれかの薬剤を散布する。

## こまつな

### は種

生育適温になるので、品質の良い品種を利用する。

### 肥培管理

気温の上昇とともに土壌が乾燥してくるので、日中の暖かい時間にかん水する。

### 病害虫防除

ハウス栽培では白さび病の発生に注意する。特に湿度が高く、露がつく状態が続くと発生が多くなる。は種量を適正にするなど過繁茂にならないような管理を行なう。発生した場合は、表5の薬剤で防除する。

をつける。すべて開花・結実させると養分が不足し、新梢の伸びや果実の肥大が悪くなる。花粉の多い白鳳などの品種を中心に摘蕾作業を行なう。結実の悪い清水白桃などは、結実を確保するために軽めの摘蕾とする。残す蕾の位置は、結果枝の長さで異なるが、どの場合でも枝の基部や上向きの蕾はすべて摘み取り、葉芽近くにある蕾を残す。なお、摘蕾の適期は開花4～5日前で、蕾が小豆大でわずかに赤みを帯びた頃である。早い時期だと蕾が固く、落ちにくい。

## いちじく

### 霜害対策

春先は遅霜などの被害を受けやすくなる。そのため巻いているわら等を外す時期が早すぎないように注意する。敷きわら・マルチを早く引きすぎても霜害が起きやすくなるため注意する。

### 病害虫防除

ネコブセンチュウの被害により樹勢が低下している園では、3月下旬にネマトリンエース粒剤(10a当たり20kg/収穫60日前まで/1回)を樹冠下に散粒処理する。敷きわらやマルチを敷く前に散粒し、降雨の後に、敷きわらやマルチを敷くようにする。

\*農薬名の後の括弧内は、(希釈倍数/使用時期/総使用回数)を表示しています。